

平成25年度室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

高野大地¹⁾, 長岡優輝²⁾¹⁾日本大学大学院 理工学研究科建築学専攻 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14²⁾東海大学大学院 理学研究科化学専攻 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

Report on the 5th practice of Student Meeting held in the Annual Meeting on the Society of Indoor Environment, Japan 2013

Daichi TAKANO¹⁾ and Yuki NAGAOKA²⁾¹⁾Graduate School of Science and Technology, Nihon University, 1-8-14 Kanda Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8308, Japan²⁾Graduate School of Science, Tokai University, 4-1-1 Kitakaname, Hiratsuka, Kanagawa, 259-1292, Japan

Key words: 学生懇談会(Student Meeting), インスパイア(Inspire), ディスカッション(Discussion), 大学での研究生活(Academic Life at the University), 将来について(About Own Future)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は、主として学生会員同士の親睦、交流の促進を図ることを目的として開催されてきました。2009年に第1回目が行われて以来毎年開催されており、徐々に定着しつつあります。

これまでの学生懇談会は、学生が参加しやすい学会にするためにはどうすればよいかというテーマでディスカッションを行ったり(2009, 2010), 正会員の先生方をキャリアモデルとしてお招きし、人生の分岐点などについて体験談をお話いただいたり(2011), 科学者の卵としてこれからどんなことにChallengeしたいかについてKJ法によるグループ討議を行うなど、学生主体のバラエティに富んだ活動を行ってきました。大学や専攻、学年が様々である学生の集まりのなかで、始めは緊張感が漂いながらも、次第に学生同士の親睦も深まり、毎年大きな盛り上がりを見せています。

2. 実施概要

日 時: 2013年12月5日(木) 13:30~15:00

場 所: アルカスSASEBO (3F 小会議室)

テーマ: inspire

世話人: 関根嘉香(学術委員会, 東海大学理学部)

受付: 2014年9月24日(Received: 24 September 2014)

受理: 2014年9月27日(Accepted: 27 September 2014)

学生世話人:

高野大地(学生会員, 日本大学大学院理工学研究科)

長岡優輝(学生会員, 東海大学大学院理学研究科)

プログラム:

1) 開会挨拶, 趣旨説明(学生世話人より)

2) グループワーク開始(自己紹介含む)

3) まとめ

スタイル: ランチョン形式

参加者:

東北文化学園大学大学院(女性1名), 日本大学大学院(男性1名), 東海大学大学院(男性2名, 女性1名)

計5名

3. 実施内容

3.1 学生懇談会のあゆみ・開催趣旨説明

はじめに学生世話人から学生懇談会設立の経緯とこれまでの活動について説明しました。国内外の様々な学会では学生懇談会が設立され、学生会員による活発な活動が行われています。本学会員であった学生がそのような学会に参加したことをきっかけに、本学会でも学生懇談会を行いたいという声が上がりました。学会の協力を得て、2009年に第1回目が開催されました。それ以来、毎年開催され、今回が5回目の開催となりました。

これまで学生懇談会でやってきた活動について紹

介がありました。第1回目は学生が参加しやすい学会にするにはどうすべきかディスカッションを行いました。第2回目は第1回目で提案された案を具体化するための議論を行い、学会誌に研究室紹介の記事が掲載されることになりました。第3回目は若手の先生をお呼びし、今まで経験されたことなど研究者のキャリアについてお話いただきました。第4回目では科学者の卵としてこれからどんなことに「Challenge」したいかについて、KJ法によるグループ討議を行いました。

次に、今回の開催趣旨について説明がありました。今回の学生懇談会のテーマは「Inspire」としました。学会に参加する学生は、学校、学年、研究分野は様々であっても、皆同じ研究者や技術者の卵であり、自身の学識をより高めるために集っています。そのような人たちが集まり交流することで、普段の研究活動の中で共感できることや、新たに気付かされることなど、お互いにより刺激を受けることがあると思われまます。今回は学生がそれぞれの研究生生活を振り返り、研究活動を通して学んだこと・経験したことや、楽しいこと、辛いこと、将来について考えていることなどを共有し、互いに刺激し合える、まさに“inspire”されるような機会にすることを目的とし、このようなテーマを設定しました。

3.2 グループワーク

今回の学生懇談会では、学生世話人が考案した3つのテーマに対する回答として、各自がキーワードをボード紙に書き、一人ずつ発表してゆく形式としました。ボード紙への表現は自由としました。発表者に対して気になることを質問したり、同じような経験を話したりするなど、自由な雰囲気では話題を共有できるようにしました。学生世話人もグループワークに参加し、会場には飲み物やお菓子が用意され、ランチョン形式で和やかに進められました。

早速1つ目のテーマ「研究活動をしているなかで楽しかったこと・辛かったこと・学んだこと」が掲示され、皆がペンをとり、ボードへの記入が始まりました。それぞれが大学で行ってきた活動を振り返り、感じてきたことを1つのキーワードにまとめるという作業に、すらすらとペンが進む学生もいれば、じっくりと考えながら書き込む学生もみられました。

一通りボードへの記入が終わると、一人ずつ順番に発表が行われました。1つ目のテーマの発表の前



写真1 テーマに対するキーワードをボードへ書き込む様子

に参加者の自己紹介が行われました。学生懇談会への参加が初めての学生もおり、やや緊張感に包まれていました。

まず、「研究活動をしていて楽しかったこと」については、実験を行っていて、予想通りの結果が得られたこと、分析の結果が面白い傾向を示したことなど、成果を挙げることができたときに楽しいと感じるという意見が挙がりました。また、英語で論文を作成するうちに英語の勉強が楽しくなった、学会発表や調査などで、様々な場所を訪問することができるといった個性的な意見も挙がりました。

「研究活動をしていて辛かったこと」については、分析のため連日大学に泊まり込んだこと、地道な作業が多いことなど、作業量の多く辛いと感じることがあるという意見や、学会発表の時に緊張して質問回答が上手くいかなかったこと、授業や事務仕事があり、実験の時間を確保することが難しいことなどの意見も挙がりました。

「研究活動をしていて学んだこと」については、時間の使い方、健康管理が大切であること、人へのお願い・頼みごとの仕方など、研究活動を効率的に進めるための術を学んだという意見が多かったです。また、地道な作業の積み重ねを行ってこそ成果が得られるという事、実験の分析結果が出たときに、その結果になった要因が単純なものではないとわかったこと、英語の論文作成によって英語力がついたなど、研究と真剣に向き合う中で培われた意見も挙げられました。

2つ目のテーマは「今後やってみたいと思うこと」です。学生生活の間にやりたいこと、社会に出てから挑戦したいことなどについて、自由にボードに表現してもらいました。やりたいことについては、皆

考えることたくさんあったのか、ペンの進みが速かった印象を持ちました。

就職活動が始まり、自身の将来について真剣に考える時期にある修士1年生の学生からは、理科の教員になり理科(科学)の楽しさを子供に伝えたい、研究者としてこれまでの経験を活かしたい、世の中に役立つものを作りたいなど明確な目標が挙げられました。就職が決まっている修士2年生からは、早く仕事に慣れて資格取得を目指したいといった意見が



写真2 発表の風景

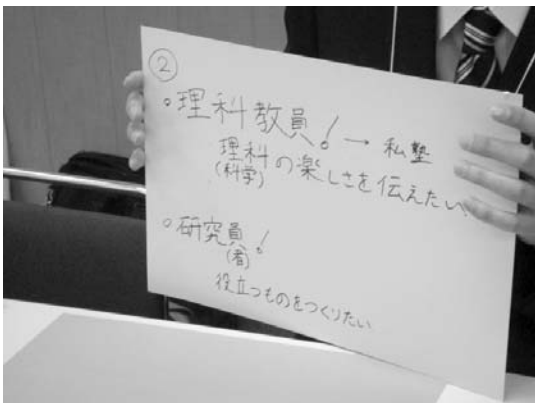


写真3 一人ずつボードに書いたキーワードについて説明した(今後やってみたいこと)



写真4 他者の発表を聞いて興味深く頷く様子

挙げられました。また、多忙な研究生活を送っている学生からは、一度研究から離れてゆっくりと観光旅行に行きたい、まとまった休みがあれば読書やゲームをしたい、一日中寝てみたいという意見が挙げられ、何人かが頷く場面も見られました。

3つ目のテーマはこれまでの他の学生の発表を聞いて「inspire」されたことです。初対面の学生も多い中、これまでの発表を聞いて共感できることや新たに気づかされたことなど、充実した意見交換を行うことができたように思います。各自が今日の懇談会で感じたことを自由に表現してもらいました。挙げられた意見の中には、研究内容は様々であっても、環境は皆ある程度似ていること、苦勞していることは皆同じであると感じたなど、共通点を見つけたという意見が非常に多く挙げられました。粘り強く研究に取り組む姿勢を見習いたい、時間の使い方が大事であることを再認識したといった、参加者から学んだという意見も多く挙げられました。



写真5 学生懇談会の案内掲示

4. まとめ

今回の学生懇談会は「Inspire」というテーマのもと、学生が各テーマに関する話題を共有し、刺激ある有意義な会とすることができたように思います。専門分野は多様であれども、「室内環境」という大きなテーマのもとに本学会に参加している学生には、普段の研究生活や、その中で考えていることに多くの共通点がありました。中にはユニークな考え方や、ストイックに研究に打ち込む姿勢など、「こんな経験をしているんだ」というような体験談に驚かされる場面もあり、グループワークが進行するにつれて緊張感も薄れ、盛り上がりを見せるようになりました。今回の学生懇談会で得たこと、聞いたことが、今後自分の励みになり、明日からの研究生活に一生懸命

取り組みたいと思えたことは、学生懇談会が学会に参加した学生にとって大いに意義のある活動であるということが感じられました。

しかし、今回の学生懇談会の反省点として、例年よりも参加人数が少なかったことが挙げられます。この点に関して、早期からの情報公開や招待の手配と、他分野にわたる学生会員が共有できるようなテーマの立案が重要であると感じました。今後学生懇談会を更に盛り上げるため、学術委員会や会員の皆様、各種学校や研究室の先生方のお力添えも不可欠と考えており、誠に僭越ながらご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

5. 平成26年度室内環境学会学術大会学生懇談会実施のお知らせ

今年も東京新宿にて学生懇談会を開催いたします。

今回のテーマは“Communication”です。学会に参加する学生は学校、学年、専門研究など様々な分野で活動する研究者です。そこで今回の懇親会を通して、ほかの分野に取り組む学生と“Communication”を積極的に図り、発見や自らの視野を広げるとともに、将来支えあえる仲間として交友を広げる機会を設けていきたいと考えています。

開催日：2014年12月5日(金) 13:00~14:30

会場：工学院大学新宿キャンパス

テーマ：Communication

学生世話人：岡 将大(学生会員，長崎国際大学)

長橋修平(学生会員，長崎国際大学)

高橋未奈美(学生会員，東海大学)

木村桂大(学生会員，東海大学)

世話人：関根嘉香(学術委員会，東海大学)

参加：事前申し込み不要，お弁当，おやつ持参可